

# 業界・セクター横断型居住支援 ～住まいサポートふくおか及び関連事業について～

1

福岡市社会福祉協議会 栗田 将行

## 福岡市の概況

- 人口：162万492人（令和3年11月1日現在）
- 世帯数：83万7,778世帯（令和3年11月1日現在）
- 単身高齢者世帯数：8万1,715世帯（令和2年国勢調査）
- 高齢化率：22.2%（令和4年10月1日現在）
- 75歳以上高齢化率：10.5%（令和3年7月1日現在）
- 認知症高齢者数：3万4,524人（平成29年9月末現在）
- 療育手帳取得者数：1万2,164人（令和2年3月31日現在）
- 精神保健福祉手帳取得者数：1万7,454人（令和2年3月31日現在）

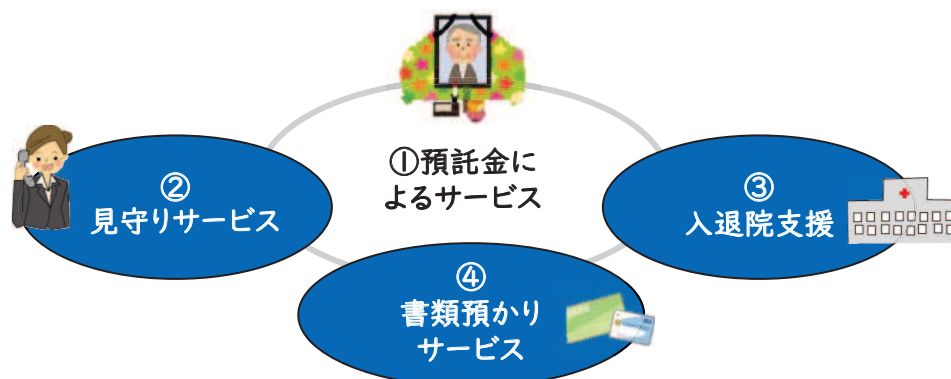


# 居住支援活動の経緯

H23	ずーっとあんしん安らか事業
H26	住まいサポートふくおか(福岡市居住支援協議会事業) 【厚労省】低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業 H26～28 【国交省】重層的住宅セーフティネット構築支援事業 H29～ 【国交省】共生社会実現に向けた住宅セーフティネット機能強化・推進事業 R2～
H28	社会貢献型空家バンク(一般社団法人古家空家調査連絡会共同事業) 【国交省】スマートウェルネス住宅等推進モデル事業 H28～30 【中央共同募金会】赤い羽根福祉基金 H28～30 【国交省】空き家対策の担い手強化・連携モデル事業 R1
H29	やすらかパック事業
R1	終活サポートセンター設置
R2	居住支援法人事業 【国交省】居住支援法人事業補助金
R2	住まい・まちづくりセンター設置
R2	協定を締結 ・西日本シティ銀行「終活に係る包括支援の連携協定」 ・ふるさと創成の会「SDGsプラットフォーム形成協定」
R3	コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証実験事業 【ニッセイ財団】高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成

## ▶ずーっとあんしん安らか事業

あらかじめ**預託金**をお預かりして、契約した方が亡くなった時に、預かった金額内で**葬儀・納骨・公共料金等の精算や家財の処分などの死後事務**を行う事業。

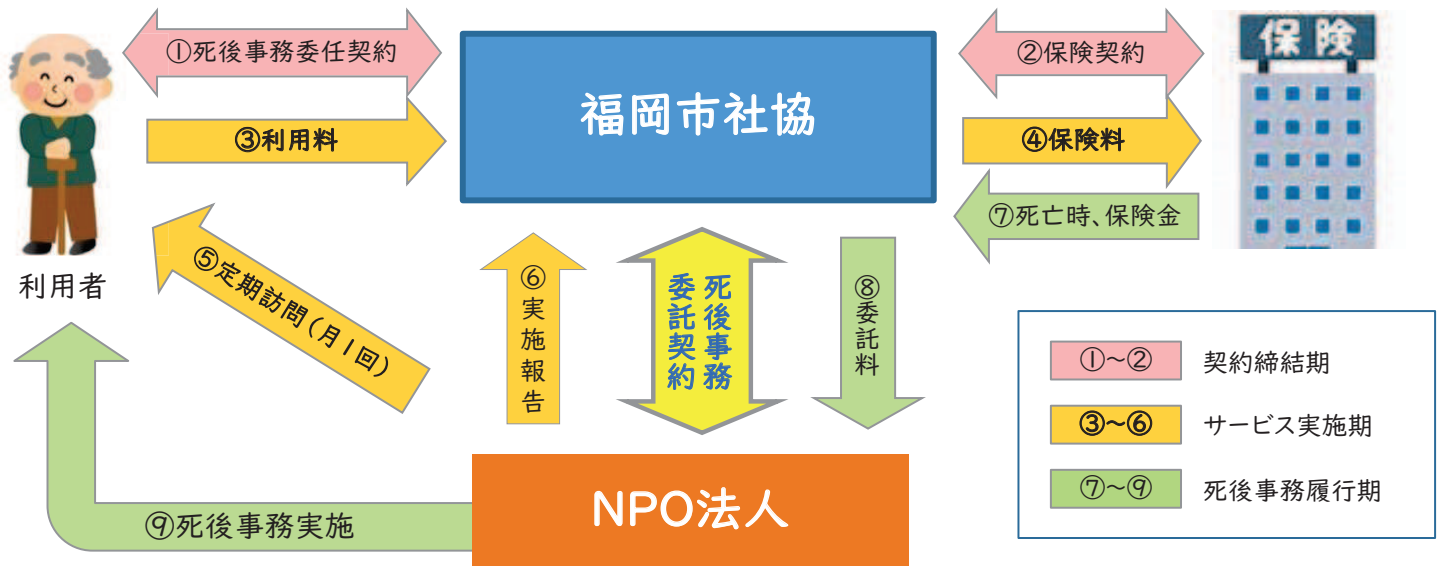


### 対象者

- 福岡市内に居住する70歳以上の方(世帯全員70歳以上であること)
- 明確な契約能力を有する方
- 原則として子がない方
- 生活保護を受給されていない方

## ▶ やすらかパック事業

生前の契約により、毎月定額の利用料金の支払いのみで、  
直葬、納骨、家財処分、行政手続きなどの死後事務を行なう事業。



5

## ▶ 終活サポートセンター

終活サポートセンターでは、高齢期・終末期への備えとして、  
認知症・尊厳死・相続・遺言・親亡き後…等の意思決定支援を行う。

### 終活相談窓口

R3年度相談実績:延べ1,135件

- ・センター開設時間 9:00～17:00(平日)
- ・予約制相談 毎週水曜日 第1・3・5 終活アドバイザーの総合相談  
第2・4 弁護士の専門相談

### 終活応援セミナーの開催 ※市委託

R3年度実績:3回(延べ2,275名参加)

- ・終活への関心を高めるための講演会を実施。

### 終活出前講座・出張相談窓口設置

R3年度実績:31回(838名参加)

- ・公民館や集会場などで行われている「ふれあいサロン」や「地域カフェ」等に出向き、「備え」や「意思決定」についての啓発や情報提供を行う。
- ・関心の高いテーマ 「葬儀や納骨の準備のしかた」「エンディングノートの書き方」「相続で争族にならないために」「終の棲家」等

6

## ○事業概要

「緊急連絡先」や「保証人」を確保できない高齢者等を支援するため、**福岡市社会福祉協議会(市社協)**に**コーディネーター**を配置し、高齢者の入居に協力する**「協力店」**及び**「支援団体」**の登録を行うとともに、「支援団体」などで構成される**「プラットフォーム」**を構築し、高齢者の民間賃貸住宅への円滑入居及び入居後の生活支援を行う事業。

厚労省のモデル事業への採択後、福岡市及び市社協の関係者で事業内容についての協議を重ね、「福岡市居住支援協議会」への報告を経て、**H26年10月に事業を開始した**。その後H28年度までモデル事業として実施したが、**H29年度より「福岡市居住支援協議会」の事業と位置付け実施している**。

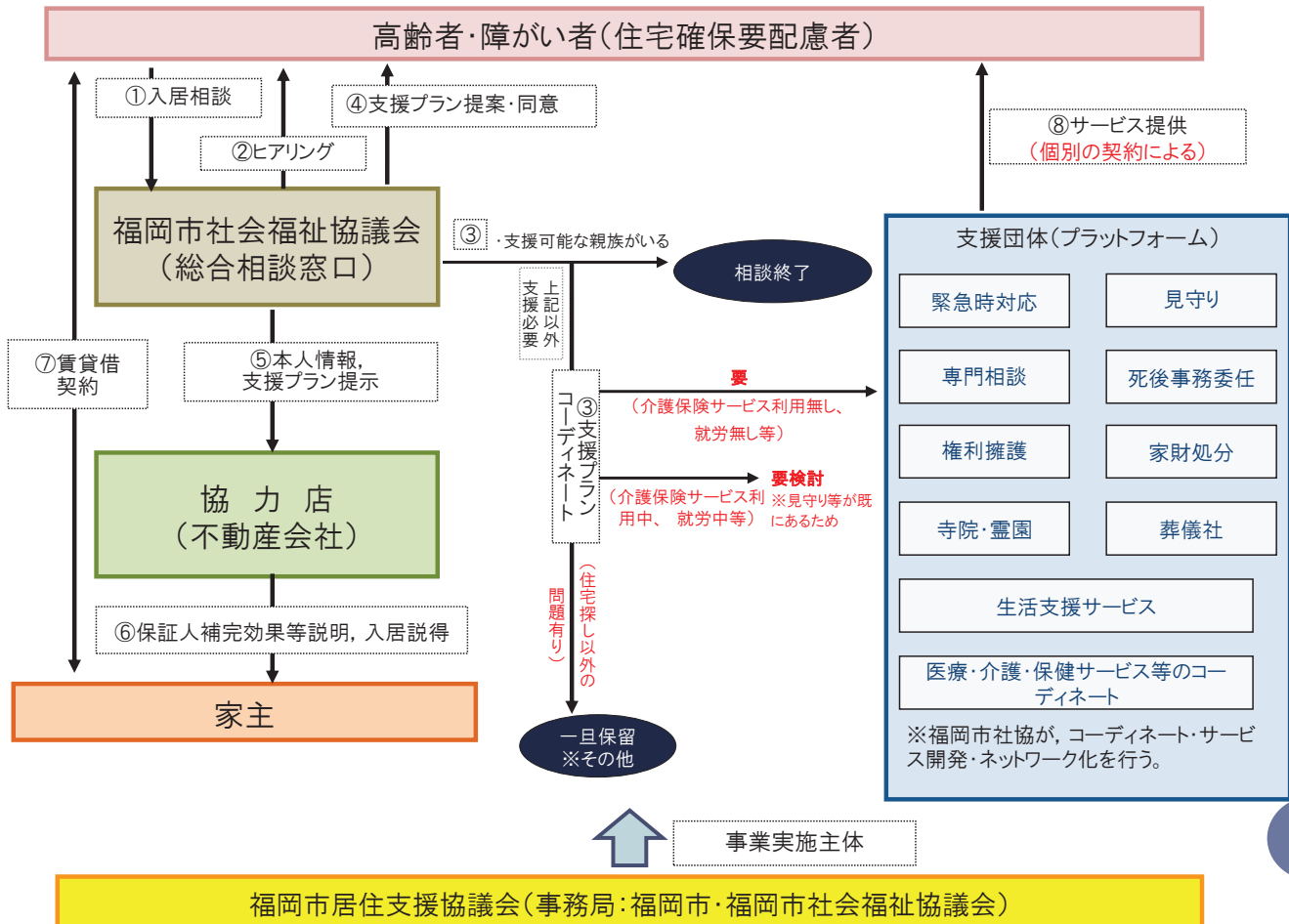


・チラシによる  
広報の実施



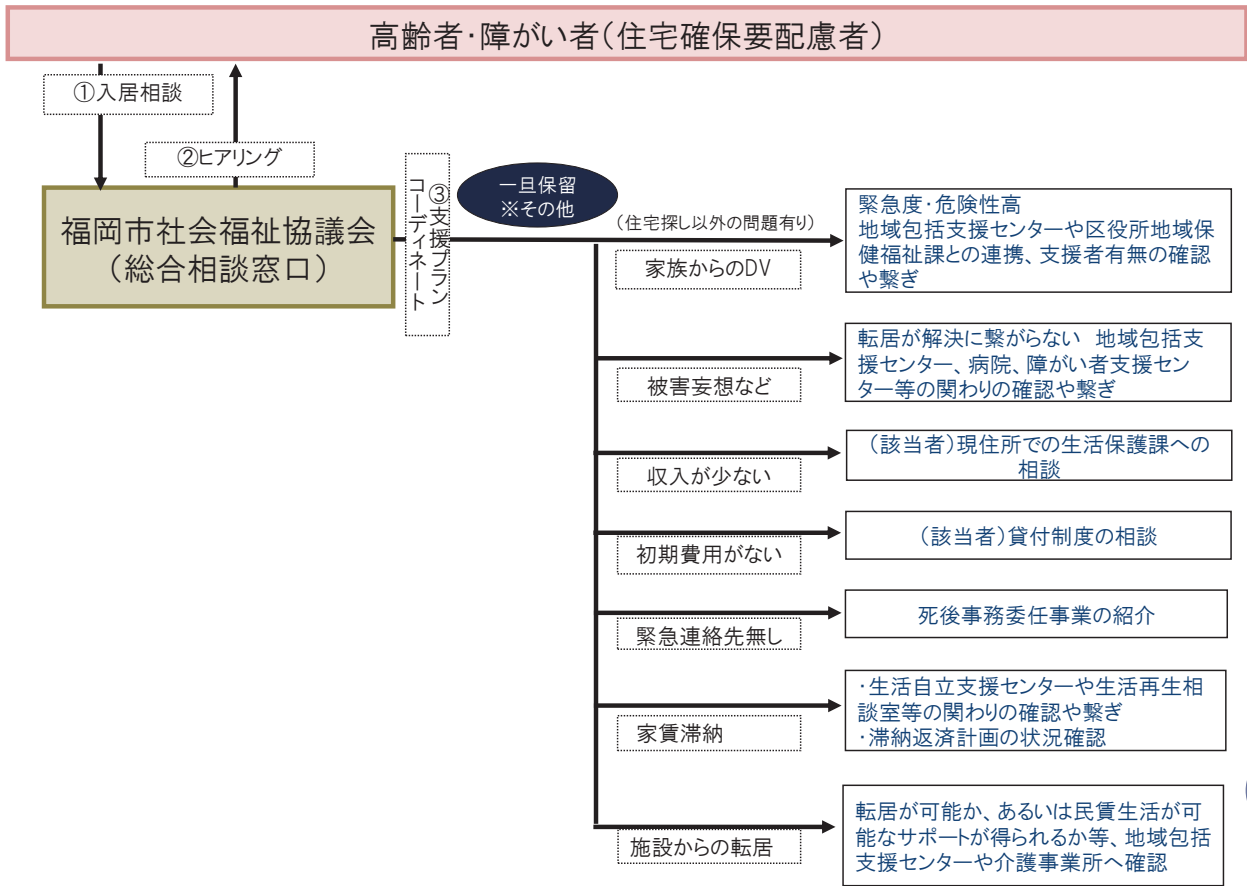
・登録した協力店には、  
ステッカーを配布

## 事業の流れ





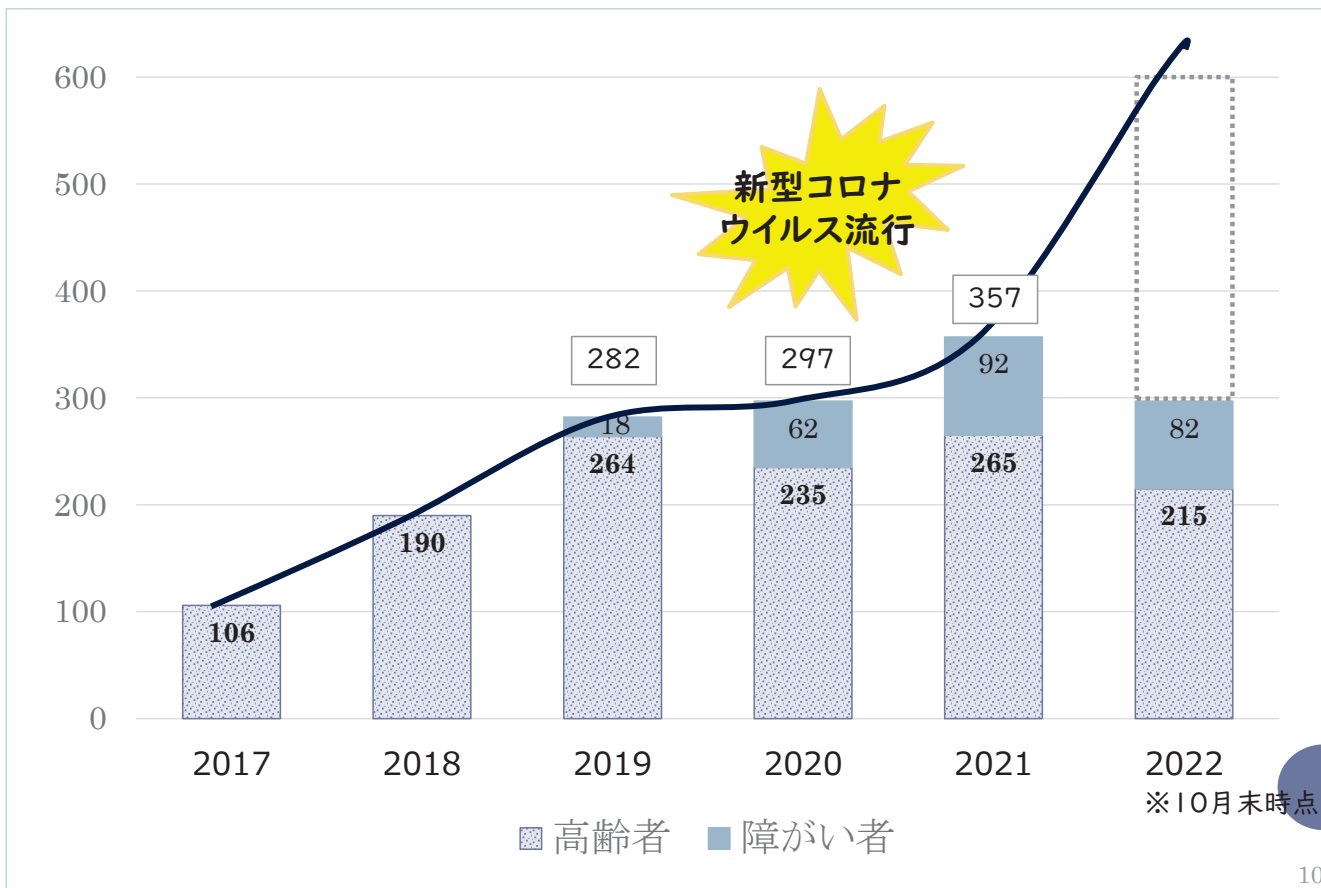
# 事業の流れ（一旦保留）



9

## ■住まいに関する相談件数

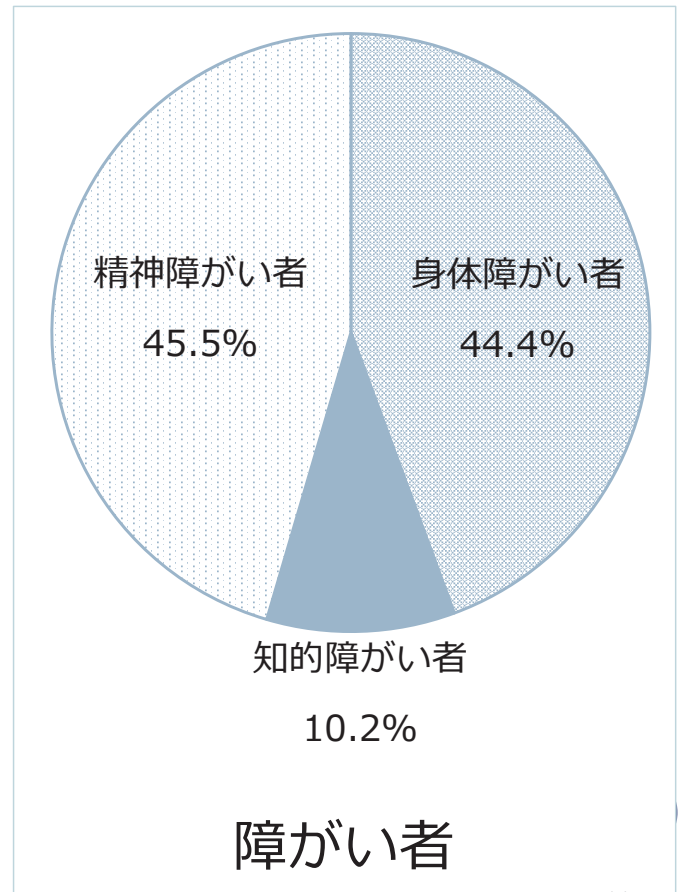
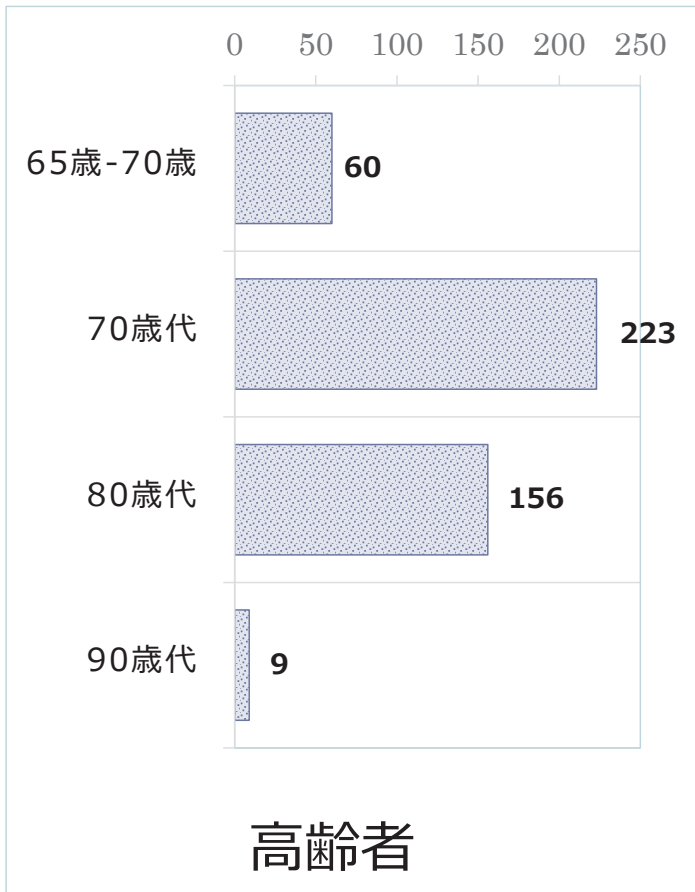
(住まい・まちづくりセンターに寄せられた相談件数)



※10月末時点

## ■ 相談者の内訳

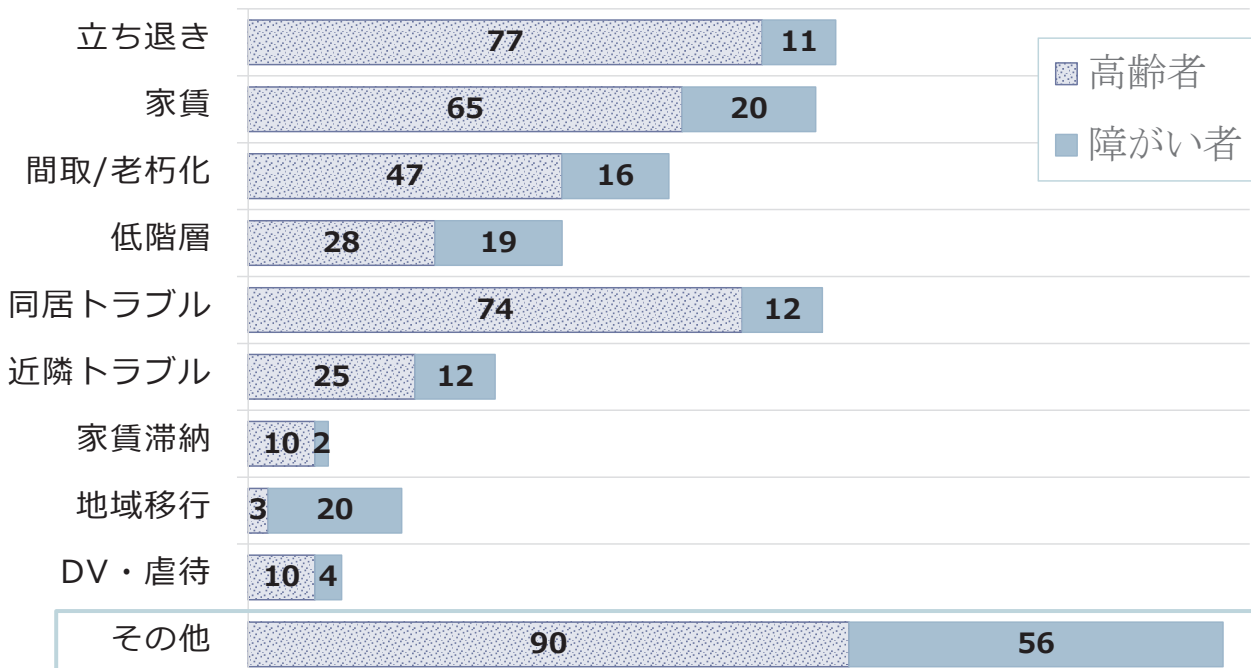
(2021年4月～2022年10月末)



11

## ■ 住み替えの理由

(2021年4月～2022年10月末)



持家売却／病院受診／保証人死亡／ホテル・車中生活／社宅退所 など…

12

# プラットフォーム連絡会議

## ○プラットフォーム連絡会議の様子



13

## 社会貢献型空家バンク事業

親から相続したけど使っていない家を地域のために使ってもらいたいな



古屋・空家オーナー

- ・相続したが使っていない家
  - ・広すぎる一軒家
  - ・家族が自立して空いた部屋等
- 社会貢献や地域福祉のために提供したい方



この地域の活性化のために活動したいけどいい物件がないかな



福祉団体・地域団体

- ・社会福祉に活用できる拠点を安価で借りたい
  - ・地域活動をしたいが拠点がない等
- 社会貢献や地域福祉活動をしたいという方



# ～『空家を探して』『福祉で使う』仕組み作り～

## 空家活用をサポートするワンストップの専門家相談ネットワーク



## お堂を障がい福祉サービス事業所へ ～利生院～







遺贈物件をシェアハウスへ ～なかしまホーム～



# 漆喰塗りワークショップ



シェアハウスのお部屋の様子



## 高齢者の住み開きからフリースクールへ







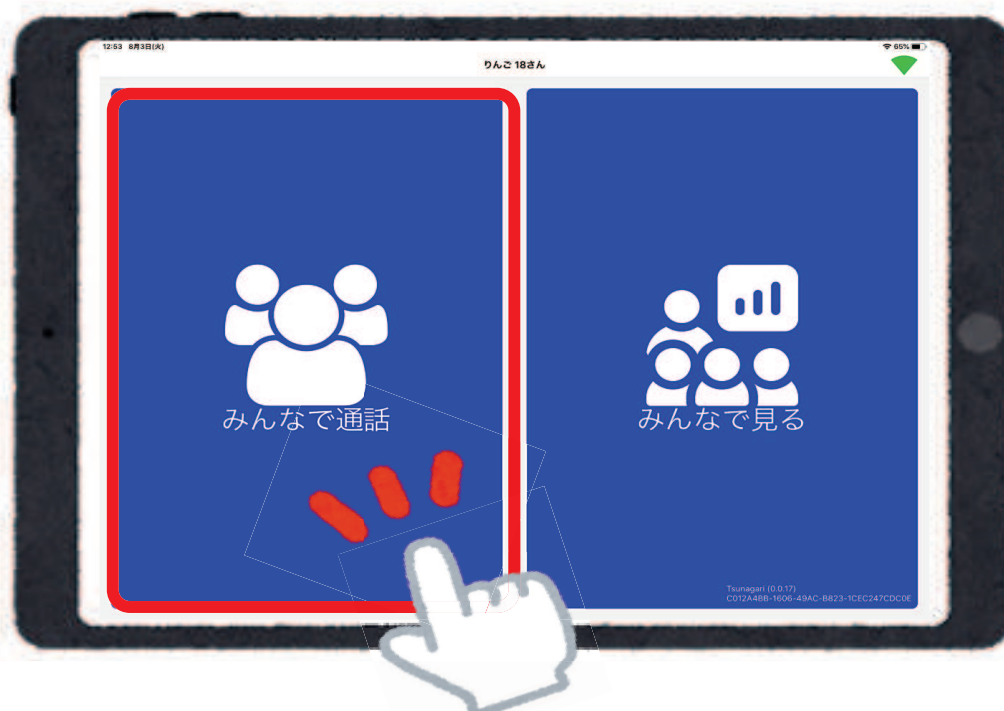
# 福祉 × ICT

## 見守り・交流アプリ

21

### 「みんなで通話」

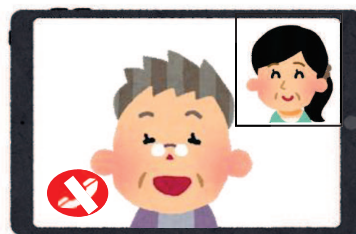
あらかじめ設定したグループのメンバーでビデオ通話ができる部屋です。



左側の画面を指でタップ

22

## オンライン訪問



自宅からの見守り活動として、高齢者の顔を見ながらコミュニケーションを取ることで、異変がないかを確認できます。

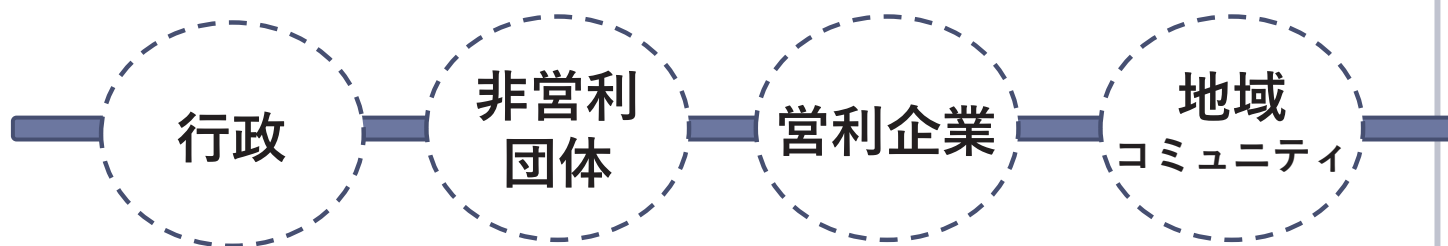
## オンライン会食



自宅から、お友達と話をしながら食事ができます。

23

### ■ 「居住支援」の「協働」による取組み



**業界・セクター**を横断した取組みを実践しています



24